

取扱説明書
302HW

Y! mobile

はじめに

この度は、302HW（以下、本機）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。またお読みになった後は、いつでも見られるようお手元に大切に保管してください。不明な点がございましたら、お問い合わせ先（☞ P.286）までご連絡ください。

ご利用いただくにあたって

- 本機はワイモバイルの提供するサービスエリア、および国際ローミングのサービスエリアにおいてご使用になれます。
This product can be used in the coverage that Ymobile offers and the coverage of the international roaming.
- サービスエリア内であっても、屋内や電車の中、トンネル、地下、ビルの陰、山間部など電波の伝わりにくいところでは、通信ができない場合があります。また地域的に電波の伝わりにくい場所もありますので、あらかじめご了承ください。
- 電波状態が一定以上悪くなった場合には、突然通信が途切れることとなります。あらかじめご了承ください。

- 本機は高い秘匿性を有しておりますが、電波を使用している以上、第三者に通信を傍受される可能性がないとはいえません。留意してご利用ください。
- 本機は電波法に基づく無線局ですので、電波法に基づく検査を受けていただくことがあります。
- 公共の場でご使用の際は、周りの方の迷惑にならないようご注意ください。
- USIMカードを取り付けていない状態では一部使用できない機能があります。
- 本書および本書に記載された製品の使用によって発生した損害、およびその回復に要する費用については、当社は一切の責任を負いません。
- 本機の使いかたを誤ったときや静電気、電氣的ノイズの影響を受けたとき、また、故障・修理のときなどには登録している情報が消失するおそれがありますが、当社は一切の責任を負いません。
- 本機に登録した情報は必ず別にメモを取るなどして保管して下さるようお願いいたします。

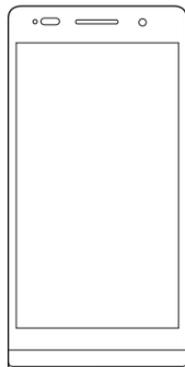
お買い上げ品の確認

このたびは、「302HW」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。お買い上げ品には、302HWと付属品が同梱されています。次のものがすべてそろっていることをご確認ください。

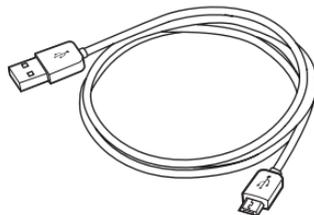
※microUSBケーブル・イヤホンマイク・専用工具は、同梱の付属品をご使用ください。

※本機には電池が内蔵されています。お客様による内蔵電池の取り外し/取り付けはできません。

■302HW本体



■microUSBケーブル (HWDBC1)



■専用工具 (試供品) ※



■イヤホンマイク (試供品) (HWLBC1)



■302HWクイックスタート

■お願いとご注意

■本体保証書

■【重要】同梱品のお取り扱いについて

※：小さな部品ですので、お取り扱いにご注意ください。

■お知らせ

- ACアダプタは付属していません。オプション品（別売）のACアダプタをお買い求めください。
- その他オプション品は、別売にてお買い求めになれます。詳細については、お問い合わせ先（P.286）までご連絡ください。

目次

■ はじめに	1
■ ご利用いただくにあたって	1
■ お買い上げ品の確認	2
■ 目次	3
■ 本書の検索方法／見かた	6
■ 安全上のご注意	8
■ お願いとご注意	17
■ Bluetooth®／Wi-Fi（無線LAN） 機能について	21
■ 著作権などについて	24
■ 商標・その他	24
■ 携帯電話機の比吸収率（SAR） について	25
■ General Notes	27

1 ご使用前の確認

各部の名称と機能	31
USIMカードについて	33
SoftBank 3Gエリアでの利用 について	36
PINコード	37
microSDカード	38
充電機器のお取り扱い	40
電源を入れる／切る	42

イヤホンマイク（試供品）の 使いかた	45
-----------------------------	----

2 基本的な画面表示と操作

ステータスバー	47
タッチパネルの使いかた	52
ホーム画面について	54
データの保存先を設定する	61
機能の呼び出しかた	61
検索のしかた	62
マナーモード／機内モード	65
音／画面の基本的な設定	66
画面の表示内容を画像で保存 する	68
自分の電話番号を確認する	69
暗証番号	69

3 文字入力

文字の入力方法	71
Androidキーボードでの入力	72
FSKAREN for Huaweiでの 入力	73
文字の編集	78
ユーザー辞書	79
文字入力の設定	82

4 電話／オプションサービス

電話をかける	87
電話を受ける	90
通話中の操作	91
通話履歴の確認／利用	93
通話の詳細設定を行う	95
オプションサービス	96

5 電話帳

電話帳について	102
連絡先を登録する	102
連絡先を確認／編集する	104
連絡先を利用／管理する	110

6 オンラインサービスの利用

本機にアカウントを設定する	117
アカウントと同期の設定を する	124
アカウントを削除する	124

7 ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) の利用

ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) について	126
Facebookを利用する	126
Twitterを利用する	127
Google+を利用する	127

8 メール

メールについて	129
SMS	130
MMS	134
Gmail	137
Eメール	138
緊急速報メール	145

9 インターネット接続

ブラウザを利用する	148
Yahoo! ブラウザーを利用する	155
Google Chromeを利用する	165
LTE/3Gパケット通信を使って接続する	169

VPNに接続する	170
----------------	-----

10 位置情報の利用

位置情報を有効にする	173
Googleマップの利用	174

11 Wi-Fi/Bluetooth®/パソコン接続

Wi-Fi機能の利用	181
Wi-Fi Directを利用する	184
Bluetooth®機能の利用	185
テザリング機能の利用	188
パソコンとmicroUSBケーブルで接続する	191
USBストレージを使用する	194

12 カメラ

カメラについて	196
撮影画面の見かた	197
静止画を撮影する	198
動画を撮影する	198
撮影モードを変更する	199

13 ギャラリー

ギャラリーについて	202
静止画/動画を再生する	204
静止画を編集する	207

14 音楽

Google Playミュージックについて	210
音楽を再生する	211

15 各種ウィジェット/アプリケーション

各種ウィジェット	216
DLNA	217
ムービースタジオ	218
電卓	221
カレンダー	221
時計	225
音声レコーダー	228
天気	229
ファイルマネージャー	229
メモ	232
Polaris® Office	233
Google Play™の利用	235

Playブックス	237
Playニューススタンド	238
Playムービー &TV	238
YouTube	239
その他のアプリケーション	239
アプリケーションの管理	241

16 セキュリティ

USIMカードロックを設定 する	244
画面ロック	245

17 各種設定

設定メニューについて	248
無線とネットワーク	248
端末	251
プライバシーとセキュリティ	254
アカウント	256
アプリ	257
スマートアシスト	257
システム	258

18 海外利用

海外で利用する	265
---------------	-----

19 付録

テーマについて	268
故障かな?と思ったら	270
ソフトウェアの更新	275
仕様	277
使用材料	279
保証とアフターサービス	280
索引	282
お問い合わせ先	286

本書の検索方法／見かた

検索方法

本書では、次の方法で知りたい機能やサービスなどの説明が記載されている箇所を検索できます。

■ 索引を利用する

画面に表示される機能や利用するサービス名から、説明が記載されている箇所を検索できます。

■ 目次から

説明項目のタイトルから、説明が記載されている箇所を検索できます。

本書での表記について

- 本書において「302HW」は「本機」と表記しています。
- 本書で説明している画面、操作手順などは、お買い上げ時の設定を例に掲載しています。
- 本書で説明しているアカウントの登録方法や内容、およびアプリケーションの操作などは、登録先の都合やアプリケーションのアップデートなどにより、事前の通知なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。
- 本書内の画面やアイコンはイメージ画像であり、予告なく変更することがあります。
- キーを1秒以上押し続ける操作を本書では「長押し」と表記しています。
- 本機では、ホーム画面で「設定」をタップすると、「ページ」／「すべて」タブをタップして設定メニューを切り替えられます。本書では、ホーム画面で「設定」をタップしたときの操作を、「すべて」タブをタップしたときの操作で説明しています。

■ 画面やアイコンについて

本機は、本体のカラーにより、お買い上げ時のテーマ（壁紙やアイコン）の設定が異なります。本書では、本体のカラーがホワイト（「Pure」のテーマ）を例にして記載しています。テーマの変更方法やアイコンの一覧など、「テーマについて」をご覧ください（▶P.268）。

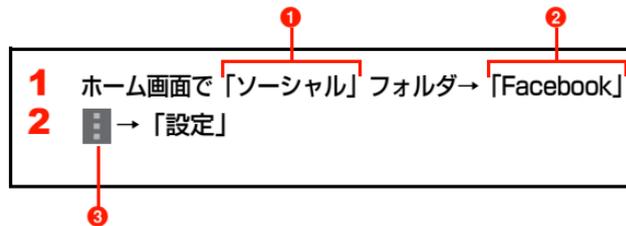
■ 本書の説明の見かた

本書では、P.7のように本機の機能やサービスについて説明しています。

■ 操作手順の表記について

本書では、メニュー操作など続けて行う操作手順を簡略化して次のように表記しています。

（例）ホーム画面に表示されているフォルダやアプリケーションアイコンを操作し、アプリケーションやメニュー項目などを続けて選択する操作手順



- 1 フォルダ名
- 2 名称表示のあるアイコンやメニューなどの選択項目
- 3 メニューアイコン

■ ページ内の記載内容

説明のタイトル

説明内容の概略

操作手順の説明
(▶P.6)

操作のポイントとなる画面例を記載しています。

画面例の表示内容を説明しています。

機能を利用するときの注意事項や補足情報を記載しています。

機能から呼び出すことができるメニューの項目について説明しています。

章タイトル

90

ページ番号

4. 電話 / オプションサービス

通話履歴の確認 / 利用

不在着信を含むすべての発信側は、通話履歴として記録されます。通話履歴を利用して電話をかけたり、連絡先に登録したりできます。

1 ホーム画面で
電話番号入力画面の上部に通話履歴一覧が表示されます。
☰をタップすると、通話履歴画面が表示されます。



通話履歴画面

1 連絡先タブ
連絡先一覧画面が表示されます。(▶P.101)。

■お知らせ

複数の通話履歴をまとめて削除するには、電話番号入力画面で
☰→「通話履歴の削除」→削除する通話履歴 / 「すべて」にチェックを付ける→「削除」→「削除」をタップします。

通話履歴画面のメニュー

通話履歴画面で通話履歴をロングタッチすると、次のメニューが表示されます。

- 通話履歴によって、表示される項目は異なります。

項目	説明
SMS送信	電話番号を宛先にしてSMSを作成します。
新しい連絡先を作成	履歴の電話番号を新しい連絡先として登録します。
既存の連絡先に保存	履歴の電話番号を登録済みの連絡先に追加保存します。
連絡先詳細	電話番号が連絡先に登録されている場合に、連絡先詳細画面を表示します。
発信前に編集	履歴の電話番号を編集して発信できます。
エントリの削除	通話履歴を削除します。

- 本項目の説明記載、およびページはサンプルです。本書の実際の記載とは、内容が異なります。
- 本書の本文中では、操作するキーの印字や形状を簡略化して記載しています。各キーの表記は「各部の名称と機能」(▶P.31)をご参照ください。

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになったあとは大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 本機の故障、誤動作または不具合などにより、通話などの機会を逸したために、お客様、または第三者が受けられた損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

表示の説明

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。内容をよく理解したうえで本文をお読みください。

 危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷※ ¹ を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷※ ¹ を負う可能性が想定される」内容です。

注意

この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷※²を負う可能性が想定される場合および物的損害※³のみの発生が想定される」内容です。

- ※1: 重傷とは失明、けが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをいう。
- ※2: 軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど、感電などをいう。
- ※3: 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害を指す。

絵表示の説明

次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。内容をよく理解したうえで本文をお読みください。

 禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。
 分解禁止	分解してはいけないことを示します。
 水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示します。

	濡れた手で扱ってはいけないことを示します。
	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示します。
	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示します。

302HW、USIMカード、microUSBケーブル、イヤホンマイク、充電用機器の取り扱いについて

危険



指示

本機に使用する AC アダプタ（オプション品）・microUSBケーブル・イヤホンマイクは、当社が指定したものを使用してください。

指定品以外のもを使用した場合は、内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火や、イヤホンマイクの音圧による難聴、ACアダプタ（オプション品）・microUSBケーブルのショート・発熱・発火・感電・故障などの原因となります。



分解禁止

分解・改造・ハンダ付けなどお客様による修理をしないでください。

火災・けが・感電などの事故または故障の原因となります。また、内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火などの原因となります。本機の改造は電波法違反となり、罰則の対象となります。



水濡れ禁止

濡らさないでください。

水やペットの尿などの液体が入ったときに、濡れたまま放置したり、濡れたまま充電すると、発熱・感電・火災・けが・故障などの原因となります。使用場所、取り扱いにご注意ください。



禁止

高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で充電・使用・放置しないでください。また、暖かい場所や熱のこもりやすい場所（こたつや電気毛布の中、携帯カイロのそばのポケット内など）においても同様の危険がありますので、充電・放置・使用・携帯しないでください。

機器の変形・故障や内蔵電池の漏液・発熱・発火・破裂の原因となります。また、ケースの一部が熱くなり、やけどなどの原因となることがあります。



禁止

本機にACアダプタ（オプション品）・microUSBケーブルを接続する際、うまく取り付けや接続ができないときは、無理に行わないでください。

警告



禁止

本機・イヤホンマイク・microUSBケーブル・ACアダプタ（オプション品）を、加熱調理機器（電子レンジなど）・高圧容器（圧力釜など）の中に入れたり、電磁調理器（IH調理器）の上に置いたりしないでください。

内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火や、本機・イヤホンマイク・microUSBケーブル・ACアダプタ（オプション品）の発熱・発煙・発火・故障などの原因となります。



指示

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所（ガソリンスタンドなど）では、必ず事前に本機の電源をお切りください。また、充電もしないでください。

ガスに引火する恐れがあります。プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災などの原因となります。



禁止

落としたり、投げたりして、強い衝撃を与えないでください。

内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火や火災・感電・故障などの原因となります。



指示

使用中、充電中、保管時に、異音・発煙・異臭など、今までと異なることに気づいたときは、次の作業を行ってください。

1. コンセントからACアダプタ（オプション品）を持ってプラグを抜いてください。
2. 本機の電源を切ってください。
異常な状態のまま使用すると、火災や感電などの原因となります。



禁止

外部接続端子やイヤホンマイク端子に水やペットの尿などの液体や導電性異物（鉛筆の芯や金属片、金属製のネックレス、ヘアピンなど）が触れないようにしてください。また内部に入れないようにしてください。

ショートによる火災や故障などの原因となります。

注意



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。

落下して、けがや故障などの原因となります。バイブレーション（振動）設定中や充電中は、特にご注意ください。



指示

乳幼児の手の届かない場所やペットが触れない場所に保管してください。

誤って飲み込んだり、けがなどの原因となります。



指示

子供が使用する場合は、保護者が取り扱い方を教えてください。使用中においても、指示どおりに使用しているかをご確認ください。

けがなどの原因となります。

内蔵電池の取り扱いについて

電池の種類を確認した上で、ご利用・処分をしてください。

表示	電池の種類
Li-ion 00	リチウムイオンポリマー電池



危険



禁止

火の中に投下しないでください。

内蔵電池を漏液・破裂・発火させるなどの原因となります。



禁止

釘を刺したり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、強い衝撃を与えないでください。

内蔵電池を漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。



指示

内蔵電池内部の液が眼の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗い流し、ただちに医師の診察を受けてください。

失明などの原因となります。



警告



指示

内蔵電池内部の液が皮膚や衣服に付着した場合は、ただちに本機の使用をやめ、きれいな水で洗い流してください。

皮膚に傷害を起こすなどの原因となります。



指示

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。

内蔵電池を漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。



注意



禁止

不要になった本機は、一般のゴミと一緒に捨てないでください。

本機を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って処理するようお願いいたします。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。



指示

充電は必ず周囲温度-10～35℃の範囲で行ってください。

充電方法については、本書をよくお読みください。

本機の取り扱いについて



警告



禁止

自動車、バイク、自転車などの乗り物の運転中には使用しないでください。

交通事故の原因となります。乗り物を運転しながら携帯電話を使用することは、法律で禁止されており、罰則の対象となります。運転者が使用する場合は、駐停車が禁止されていない安全な場所に止めてからご使用ください。



指示

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、**本機の電源を切ってください。**

電子機器が誤動作するなどの影響を与える場合があります。

※ ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器・植込み型心臓ペースメーカー・植込み型除細動器・その他の医用電気機器・火災報知器・自動ドア・その他の自動制御機器など



指示

本機の電波により運航の安全に支障をきたす恐れがあるため、**航空機内では電源をお切りください。**

機内で携帯電話が使用できる場合は、航空会社の指示に従い適切にご使用ください。



指示

心臓の弱い方は、着信時のバイブレーション（振動）や着信音量の設定に注意してください。

心臓に影響を与える恐れがあります。



指示

屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、ただちに電源を切って屋内などの安全な場所に移動してください。

落雷や感電の原因となります。



禁止

フラッシュライトの発光部を人の目に近づけて点灯発光させないでください。また、フラッシュライト点灯時は発光部を直視しないようにしてください。同様にフラッシュライトを他の人の目に向けて点灯させないでください。

視力低下などの傷害を起こす原因となります。特に乳幼児に対して至近距離で撮影しないでください。また、目がくらんだり、驚いたりしてけがなどの事故の原因となります。



指示

歩行中の使用は、**注意力が散漫になりやすいので、周囲には十分ご注意ください。**

注意



禁止

車両電子機器に影響を与える場合は使用しないでください。

本機を自動車内で使用すると、車種によりまれに車両電子機器に影響を与え、安全走行を損なう恐れがあります。



指示

本機の使用により、皮膚に異常が生じた場合は、ただちに使用をやめて医師の診察を受けてください。

本機では材料として金属などを使用しています。お客様の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などが生じることがあります（使用材料→P.279）。



禁止

本機に磁気カードなどを近づけないでください。

キャッシュカード・クレジットカード・テレホンカード・フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。



指示

本機を長時間ご使用になる場合、特に高温環境では熱くなることがありますので、ご注意ください。

長時間肌にふれたまま使用していると、低温やけどになる恐れがあります。



禁止

着信音が鳴っているときや、本機でメロディを再生しているときなどは、スピーカーに耳を近づけないでください。

難聴になる可能性があります。



指示

イヤホンマイクを使用するときは音量に気をつけてください。

長時間使用して難聴になったり、突然大きな音が出て耳をいためたりする原因となります。

充電用機器、microUSBケーブルの取り扱いについて

警告



禁止

充電中は、布や布団でおおったり、包んだりしないでください。

熱がこもって火災や故障などの原因となります。



禁止

指定以外の電源・電圧で使用しないでください。

指定以外の電源・電圧で使用すると、火災や故障などの原因となります。

ACアダプタ（オプション品）：AC100V～240V（家庭用交流 ACコンセント専用）

また、海外旅行用として、市販されている「変圧器」は使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



電源プラグを抜く

長時間使用しない場合は、ACアダプタ（オプション品）を持ってプラグをコンセントから抜いてください。

感電・火災・故障の原因となります。



電源プラグを抜く

万一、水やペットの尿などの液体が入った場合は、ただちにACアダプタ（オプション品）を持ってコンセントからプラグを抜いてください。

感電・発煙・火災の原因となります。



指示

プラグにほこりがついたときは、ACアダプタ（オプション品）を持ってプラグをコンセントから抜き、乾いた布などでふき取ってください。

火災の原因となります。



指示

ACアダプタ（オプション品）をコンセントに差し込むときは、ACアダプタ（オプション品）のプラグや端子に導電性異物（鉛筆の芯や金属片、金属製のネックレス、ヘアピンなど）が触れないように注意して、確実に差し込んでください。

感電・ショート・火災などの原因となります。



濡れ手禁止

濡れた手でACアダプタ（オプション品）のプラグを抜き差ししないでください。

感電や故障などの原因となります。



禁止

雷が鳴り出したら、充電器には触れないでください。

感電などの原因となります。



指示

ACアダプタ（オプション品）はコンセントに直接接続してください。

タコ足配線は過熱し、火災の原因となります。



注意



電源プラグを抜く

お手入れの際は、コンセントから、必ずACアダプタ（オプション品）を持ってプラグを抜いてください。

感電などの原因となります。



指示

ACアダプタ（オプション品）をコンセントから抜くときは、ケーブル部分を引っ張らず、ACアダプタ（オプション品）を持ってプラグを抜いてください。

ケーブル部分を引っ張るとケーブルが傷つき、感電や火災の原因となります。



禁止

ACアダプタ（オプション品）をコンセントに接続しているときは、引っ掛けるなど強い衝撃を与えないでください。

けがや故障の原因となります。



指示

microUSBケーブルは周囲温度-10℃～35℃の範囲で、ACアダプタ（オプション品）は周囲温度5℃～35℃の範囲でご使用ください。



禁止

ACアダプタ（オプション品）のプラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるかったりするときは使用しないでください。

USIMカードの取り扱いについて



警告



指示

USIMカードを本機に取り付けるときや取り外すときは、取り扱いにご注意ください。

必要以上に力を加えると、けがやUSIMカードの故障の原因となります。



注意



禁止

USIMカードのIC部分への接触は、データの消失や故障の原因となる可能性があります。不要なIC部分への接触は避けてください。



分解禁止

分解や改造はしないでください。

データの消失や故障の原因となります。故障した場合、当社では一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。



禁止

火のそばやストーブのそばなど高温の場所での使用および放置はしないでください。

溶解、発熱、発煙やデータの消失、故障の原因となります。



指示

USIMカードは当社が指定した機器にてご使用ください。

指定機器以外で使用した場合、データの消失や故障の原因となることがあります。なお、当該要因による不具合が発生した場合、当社では一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。



指示

本機を使用中、USIMカード自体が温かくなることがありますが、手で触れることのできる温度であれば、異常ではありませんので、そのままご使用ください。



指示

落としたり、濡らしたり、曲げたり、衝撃を与えたり、重いものを載せないでください。

変形・破損・故障の原因となります。



高温・低温・多湿・ほこりの多いところでの保管は避けてください。

禁止

故障の原因となります。



電子レンジなどの加熱調理器や高圧となる容器にUSIMカードを入れないでください。

禁止

溶損、発熱、発煙やデータの消失、故障の原因となります。



水や飲料水、ペットの尿などで濡らさないでください。

水濡れ
禁止

火災、やけど、けが、感電などの原因になります。



指示

子供が使用する際には、保護者が本書の内容を教え、また、使用の途中においても、本書どおりに使用しているかどうか注意してください。

感電やけがの原因となります。



指示

子供や乳幼児が誤ってUSIMカードを飲み込むなどの事故やけがを防止するため、USIMカードは小児や乳幼児の手が届かないところに保管してください。



指示

その他、本来の用途以外の方法で使用しないでください。

データ消失や故障の原因となります。

医用電気機器近くでの取り扱いについて



警告



指示

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、ペースメーカ等の装着部位から15cm以上離して携行および使用してください。

電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。



指示

自宅療養など医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカーなどに確認してください。

電波により医用電気機器の作動に影響を与える場合があります。



指示

医療機関などでは、以下を守ってください。本機の電波により医用電気機器に影響を及ぼす恐れがあります。

- 手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視病室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。
- 病棟内では、本機の電源を切ってください。
- ロビーなど、携帯電話の使用を許可された場所であっても、近くに医用電気機器があるときは本機の電源を切ってください。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。



指示

付近に植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、身動きが自由に取れないほど混雑した状況等、15cm以上離隔距離を確保できない恐れがある場合には、事前に通信機能が使用できない状態（例：機内モード）に切り替えるか、または携帯電話の電源をお切りください。電源が自動的に入る設定をしている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。

電波により、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器が誤動作するなどの影響を与える場合があります。

お願いとご注意

ご利用にあたって

- 本機は電波を使用しているため、サービスエリア内であっても、屋内や地下街、トンネル内などでは電波が届きにくくなり、通話／通信が困難になることがあります。また、通話／通信中に電波状態の悪い場所へ移動すると、急に途切れることがありますので、あらかじめご了承ください。
- 事故／故障などにより本機またはmicroSDカードなどに登録したデータが消失・変化した場合の損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。登録したデータは、控えをとっておかれることをおすすめします。
- 本機を公共の場でご使用の際は、周りの方の迷惑にならないようご注意ください。
- 本機は電波法に定められた無線局です。したがって、電波法に基づく検査を受けていただくことがあります。あらかじめご了承ください。
- 本書および本書に記載された製品の使用によって発生した損害、およびその回復に要する費用については、当社は一切の責任を負いません。

● 一般の電話機やテレビ、ラジオなどをお使いになっている近くで本機を使用すると、画面が乱れるなどの影響を与えることがありますので、ご注意ください。

● **傍受にご注意ください。**

本機は、デジタル信号を利用した傍受されにくい商品ですが、電波を利用している関係上、通常の手段を超える方法をとられたときには第三者が故意に傍受するケースもまったくないとは言えません。この点をご理解いただいたうえで、ご使用ください。

傍受（ぼうじゅ）とは

無線連絡の内容を第三者が別の受信機で故意または偶然に受信することです。

● 本機で画面ロック解除用のパターン／暗証番号／パスワードを設定した場合は、お忘れにならないようご注意ください。お忘れになった場合は、お問い合わせ先までご連絡ください。その際、お客様が登録／設定した内容が消失することがありますのでご了承ください。

● 本機では、Googleが提供する「Google Play™」上より、さまざまなアプリケーションのインストールが可能です。お客様ご自身でインストールされるこれらのアプリケーションの内容（品質、信頼性、合法性、目的適合性、情報の真実性、正確性など）およびそれに起因するすべての不具合（ウイルスなど）につきまして、当社は一切の保証を致しかねます。

お取り扱いについて

- 本機・内蔵電池・イヤホンマイク・microUSBケーブル・ACアダプタ（オプション品）は防水仕様にはなっていません。水に濡らしたり、湿度の高い所に置かないでください。
 - － 雨の日にバッグの外のポケットに入れたり、手で持ち歩かないでください。
 - － エアコンの吹き出し口に置かないでください。急激な温度変化により結露し、内部が腐食する原因となります。
 - － 洗面所などでは衣服に入れないでください。ポケットなどに入れて、身体をかがめると、洗面所に落としたり、水で濡らしたりする場合があります。
 - － 海辺などに持ち出すときは、海水がかかったり直射日光が当たらないように、バッグなどに入れてください。
 - － 汗をかいた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットに入れたりしないでください。手や身体の汗が本機・内蔵電池・イヤホンマイク・microUSBケーブル・ACアダプタ（オプション品）内部に浸透し、故障の原因となる場合があります。
 - － microUSB ケーブル・ACアダプタ（オプション品）は室内で使用してください。

- 本機の内蔵電池を電池残量の少ない状態で放置すると、お客様が登録・設定した内容が消失または変化してしまうことがありますので、ご注意ください。なお、これらに関しましては発生した損害につきましては当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本機は温度：-10℃～35℃、湿度：5%～95%の範囲でご利用ください。極端な高温や低温環境、直射日光の当たる場所でのご利用、保管は避けてください。
- 使用中や充電中は本機が温かくなることがありますが、異常ではありませんので、そのままご利用ください。
- 端子が汚れていると接触が悪くなり、充電不十分の原因となりますので、汚れたときは、端子を乾いた布、綿棒などでふいてください。
- お手入れは、乾いた柔らかい布などでふいてください。また、アルコール、シンナー、ベンジンなどを用いると色があせたり、文字が薄くなったりすることがありますので、ご利用にならないでください。
- 本機のディスプレイを硬いものでこすったり、傷つけないようにご注意ください。
- 本機に無理な力がかかるような場所には置かないでください。故障やけがの原因となります。
 - － 本機をズボンやスカートの後ろのポケットに入れたまま、座席やイスなどに座らないでください。
 - － 荷物の詰まったバッグの中などに入れるときは、重いものの下にならないようご注意ください。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術で作られています。画素欠けや常時点灯する画素がありますのであらかじめご了承ください。
- ディスプレイや本機に強い力を加えたとき、ディスプレイの一部が一瞬黒ずむことがあります。故障ではありません。
- 本機の外部接続端子に指定品以外のものは取り付けしないでください。誤動作を起こしたり、本機が破損したりすることがあります。
- 歩行中は、周囲の音が聞こえなくなるほど、イヤホンマイクの音量を上げないでください。周囲の音が聞こえにくくなり事故の原因となります。
- USIMカード／microSDカードの取り付け／取り外しは、必ず本機の電源を切ってから行ってください。
- 本機が停止したり、入力を受け付けなくなったり、フリーズしたりする場合、電源を入れ直してください。
- 使用中に、強い磁石を近づけないでください。故障の原因となります。
- 外部接続端子／イヤホンマイク端子にゴミやほこり、金属片などの異物を絶対に入れないでください。故障や記憶内容の消失の原因となります。
- はじめてお使いのときや、長時間でご利用にならなかったときは、ご使用前に必ず充電してください。

- 内蔵電池の使用時間は、使用環境や内蔵電池の劣化度によって異なります。極端な高温や低温環境では、内蔵電池の容量が低下し、ご利用できる時間も短くなります。また、内蔵電池の寿命も短くなります。
- 充電中、ACアダプタ（オプション品）が温かくなることがありますが、異常ではありませんのでそのままご使用ください。
- USIM カードの IC 部分はいつもきれいな状態でご使用ください。
- お客様ご自身でUSIMカードに登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管して下さるようお願いいたします。万が一、登録された情報内容が消失してしまうようなことがあっても、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

カメラについて

- カメラに直射日光が当たらないようにしてください。直射日光が当たる状態で放置すると、素子の退色・焼付けを起こすことがあります。
- カメラ部分に、直射日光が長時間当たると、内部のカラーフィルターが変色して、映像が変色することがあります。
- 大切な撮影をするときは、必ず試し撮りをして正しく撮影されることを確認してください。

- お客様が本機を利用して公衆に著しく迷惑をかける不良行為などを行う場合、法律、条令（迷惑防止条例など）に従い処罰されることがあります。撮影や画像送信を行う際は、プライバシーなどにご配慮ください。
- 販売されている書籍類や撮影の許可されていない文字情報の記録には使用しないでください。

緊急速報メールについて

- 緊急速報メールはお申し込み不要の無料サービスです。
- 通話中、データ通信中ならびに電波状態が悪い場所では受信できない場合があります。
- 緊急地震速報であっても、地震などの揺れを感じるよりも早く必ず受信できるとは限りません。
- 緊急速報メールの内容、緊急速報メールを受信したことまたは受信できなかったことに起因した損害について、当社は一切の責任を負いかねます。
- 受信できなかった緊急速報メールを後で受信することはできません。

スマートフォンの自動通信について

- スマートフォンは最新のソフトウェアやアプリケーションを確認するための通信、データの同期をするための通信を行う仕様となっています。

- データを自動で同期することで常に最新のデータを確認したり、より便利にご利用いただくことができますが、自動で通信が行われた場合もデータ通信料が発生します。

Bluetooth® / Wi-Fi (無線LAN) 機能について

- 本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するとき無線局の免許は必要ありません。
- 本機は、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
 - 本機を分解／改造すること
- 本機はすべてのBluetooth® / Wi-Fi対応機器との接続／動作を保証するものではありません。
- Bluetooth® / Wi-Fi機能を使用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth® / Wi-Fiの標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、使用環境や設定内容などによってはセキュリティが十分でない場合があります。Bluetooth® / Wi-Fi機能で通信を行う際はご注意ください。
- Bluetooth® / Wi-Fi通信時に発生したデータおよび情報の漏洩につきましては、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

- 本機のBluetooth®/Wi-Fi機能の使用周波数帯では、電子レンジなどの家庭用電化製品や産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. Bluetooth®/Wi-Fi機能を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、Bluetooth®/Wi-Fi機能の使用にあたり、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、使用を中断して混信回避のための処置（パーティションの設置など）を行うなど、電波干渉をしないようにしてください。
3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お問い合わせ先（→P.286）までお問い合わせください。

周波数帯について

本機のBluetooth®/Wi-Fi機能が使用する周波数帯は、次のとおりです。

2.4FH1/DS4/OF4

2.4: 周波数2400MHz帯を使用する無線装置であることを示します。

FH/DS/OF: 変調方式がFH-SS、DS-SS、OFDMであることを示します。

1: 想定される与干渉距離が10m以下であることを示します。

4: 想定される与干渉距離が40m以下であることを示します。

■ ■ ■ : 2401MHz~2483MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避できることを示しています。

- 本機のWi-Fiで設定できるチャンネルは1-13です。これ以外のチャンネルのアクセスポイントには接続できませんのでご注意ください。

- 利用可能なチャンネルは国により異なります。

- 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

- Wi-Fiを海外で利用する場合、ご利用の国によっては使用場所などが制限される場合があります。その場合は、その国の使用可能周波数、法規制などの条件をご確認のうえ、ご利用ください。

Wi-Fiについてのお願い

電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。

- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります。特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 近くに複数のWi-Fiアクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。

Bluetooth®とWi-Fi機器との電波干渉について

Bluetooth®とWi-Fi (IEEE802.11b/g/n) は同一周波数帯 (2.4GHz) を使用するため、Wi-Fiのアクセスポイントや対応機器の近くでBluetooth®を使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能の原因になる場合があります。この場合、本機およびBluetooth®接続する対応機器を離れた場所でお使いいただくか、またはWi-Fi対応機器の電源を切るなど、電波干渉による障害を防ぐようにしてください。

著作権などについて

映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作物および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本機を使用して複製などをなされる場合には、著作権法を遵守のうえ、適切なご使用を心がけていただきますよう、お願いいたします。

また、本機にはカメラ機能が搭載されていますが、本カメラ機能を使用して記録したものにつきましても、上記と同様の適切なご使用を心がけていただきますよう、お願いいたします。

商標・その他

- microSDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Bluetooth® ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、HUAWEI TECHNOLOGIES CO., LTD.は、これら商標を使用する許可を受けています。
- Pocket WiFiの商標およびロゴは、ワイモバイル株式会社の商標または登録商標です。
- 「Yahoo!」および「Yahoo!」「Y!」のロゴマークは、米国Yahoo! Inc.の登録商標または商標です。
- 「Google」、「Google」ロゴ、「Android」、「Android」ロゴ、「Google Play」、「Google Play」ロゴ、「Gmail」、「Gmail」ロゴ、「YouTube」、「YouTube」ロゴ、「Google Maps」、「Google Maps」ロゴ、「Google マップナビ」、「Google マップナビ」ロゴ、「Google 検索」、「Google 検索」ロゴ、「Google 音声検索」、「Google 音声検索」ロゴ、「Google+」、「Google+」ロゴ、「Chrome」、「Chrome」ロゴ、「Google+ハングアウト」は、Google Inc.の商標または登録商標です。その他会社名および製品も、関連する会社の商標である場合があります。
- Wi-Fi Certified®とそのロゴは、Wi-Fi Allianceの登録商標または商標です。
- DLNA は登録商標です。Digital Living Network Allianceは、デジタル リビング ネットワーク アライアンスのサービスマークです。

- 「FSKAREN」は、富士ソフト株式会社の登録商標です。
- 「Facebook」は、Facebook, Inc.の商標または登録商標です。
- 「Twitter」の名称とロゴはTwitter, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- 「GREE」および「GREE」ロゴは、GREE株式会社の登録商標または商標です。
- 「Mobage」および「Mobage」ロゴは、株式会社ディー・エヌ・エーの登録商標または商標です。
- Adobe, Adobe PDFは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標です。
- For DTS patents, see  <http://patents.dts.com>. Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS, the Symbol, & DTS and the Symbol together are registered trademarks, and DTS Sound is a trademark of DTS, Inc. © DTS, Inc. All Rights Reserved.
- Microsoft® Wordは、米国Microsoft Corporationの商品名称です。
- Microsoft®, Windows®, Windows Vista®, Excel®, PowerPoint®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

携帯電話機の比吸収率 (SAR) について

この機種302HWの携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準に適合しています。

この技術基準^{*1}は、人体頭部のそばで使用される携帯電話機などの無線機器から送出される電波が人間の健康に影響を及ぼさないよう、科学的根拠に基づいて定められたものであり、人体側頭部に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率 (SAR: Specific Absorption Rate) について、これが 2W/kg^{*2} の許容値を超えないこととしています。この許容値は、使用者の年齢や身体の大きさに関係なく十分な安全率を含んでおり、世界保健機関 (WHO) と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会 (ICNIRP) が示した国際的なガイドラインと同じ値になっています。この携帯電話機302HWの、SARは 0.183W/kg です。

この値は、国が定めた方法に従い、携帯電話機の送信電力を最大にして測定された最大の値です。

個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。また、携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話している状態では、通常SARはより小さい値となります。

側頭部以外の位置でご使用になる場合

この携帯電話機は、側頭部以外の位置でも使用可能です。キャリングケース等のアクセサリをご使用になるなどして、身体から1.0センチ以上離し、かつその間に金属(部分)が含まれないようにすることで、この携帯電話機は電波防護の国際ガイドラインに適合します(※3)。

世界保健機関は、『携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。』と表明しています。

SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記のホームページをご参照ください。

- 総務省のホームページ
<http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm>
- 一般社団法人電波産業会のホームページ
<http://www.arib-empf.org/index02.html>

- ※1: 技術基準については、電波法関連省令(無線設備規則第14条の2)で規定されています。
- ※2: 平成9年に(旧)郵政省電気通信技術審議会により答申された「電波防護指針」に規定されています。
- ※3: 携帯電話機本体を側頭部以外でご使用になる場合のSARの測定法については、平成22年3月に国際規格(IEC62209-2)が制定されました。国の技術基準については、平成23年10月に情報通信審議会より答申されています。

電波ばく露の影響に関する情報として、欧州における情報を掲載しています。詳細は「欧州における電波ばく露の影響に関する情報」をご参照ください。

「欧州における電波ばく露の影響に関する情報」

この携帯電話機302HWは無線送受信機器です。本品は国際指針の推奨する電波の許容値を超えないことを確認しています。この指針は、独立した科学機関である国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が策定したものであり、その許容値は、使用者の年齢や健康状態にかかわらず十分に安全な値となっています。

携帯電話機から送出される電波の人体に対する影響は、比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)という単位を用いて測定します。携帯機器におけるSARの許容値は2W/kgで、身体に装着した場合のSARの最高値は0.603W/kgです。

SAR測定の際には、送信電力を最大にして測定するため、実際に通話している状態では、通常SARはより小さい値となります。これは、携帯電話機は、通信に必要な最低限の送信電力で基地局との通信を行うように設計されているためです。

世界保健機関は、携帯機器の使用に関して、現在の科学情報では人体への悪影響は確認されていないと表明しています。また、電波の影響を抑えたい場合には、通話時間を短くすること、または携帯電話機を頭部や身体から離して使用することが出来るハンズフリー用機器の利用を推奨しています。

さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。

General Notes

Electromagnetic Safety

For body-worn operation, this phone has been tested and meets RF exposure guidelines when used with accessories containing no metal, that position handset a minimum of 10mm from the body.

Use of other accessories may not ensure compliance with RF exposure guidelines.

RF Exposure Information/Specific Absorption Rate* (SAR) Information

This mobile phone 302HW meets the MIC's**** technical regulation for exposure to radio waves.

The technical regulation* established permitted levels of radio frequency energy, based on standards developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies.

The regulation employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

The SAR limit is 2 watts/kilogram (W/kg)** averaged over ten grams of tissue.

The limit includes a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The value of the limit is equal to the international guidelines recommended by ICNIRP****.

The highest SAR value for this mobile phone is 0.183 W/kg when tested for use at the ear.

While there may be differences between the SAR levels of various phones and at various positions, all phones meet MIC's technical regulation.

Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR of the phone during operation can be well below the maximum value.

Use at positions other than at the ear

This mobile phone may be used at positions other than at the ear. By using an accessory such as a belt clip holster that maintains a 1.0 cm separation with no metal (parts) between the body and the mobile phone, this mobile phone will comply with international guidelines for radio wave protection (***).

The World Health Organization has announced that "A large number of studies have been performed over the last two decades to assess whether mobile phones pose a potential health risk. To date, no adverse health effects have been established as being caused by mobile phone use."

For more information about SAR, see the following websites:

- Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC)
<http://www.tele.soumu.go.jp/e/sys/ele/body/index.htm>
- Association of Radio Industries and Businesses (ARIB)
<http://www.arib-emf.org/index02.html> (Japanese)

* The technical regulation is provided in Article 14-2 of the Ministry Ordinance Regulating Radio Equipment.

** Provided for in "Radio-radiation protection guidelines" , reported in 1997 by the Telecommunications Technology Council, Ministry of Posts and Telecommunications.

*** A method of measuring SAR when a mobile phone is used at positions other than at the ear was established in March 2010 through an international standard (IEC62209-2). MIC technical regulation was reported in October 2011 by the Information and Communications Council.

**** Ministry of Internal Affairs and Communications

***** International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection

Information from the E.U. is given as information relating to RF exposure. For details, see "European RF Exposure Information" .

European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health.

The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2.0 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear was 0.402 W/kg*. As mobile devices offer a range of functions, they can be used in other positions, such as on the body as described in this User Guide**. In this case, the highest tested SAR value is 0.603 W/kg***. As SAR is measured utilizing the devices highest transmitting power the actual SAR of this device while operating is typically below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum level required to reach the network.

The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head and body.

*The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

** Please see Electromagnetic Safety on page 27 for important notes regarding body worn operation.

*** A method of measuring SAR when a mobile phone is used at positions other than at the ear was established in March 2010 through an international standard (IEC62209-2). MIC technical regulation was reported in October 2011 by the Information and Communications Council.

World Health Organization
<http://www.who.int/emf>

Warning

This device have been tested to comply with the Sound Pressure Level requirement laid down in the applicable EN 50332-1 and/or EN 50332-2 standards. Permanent hearing loss may occur if earphones or headphones are used at high volume for prolonged periods of time. Prevention of Hearing Loss
Warning statement requirement under EN 60950-1:2006/A12:2011.



Warning: To prevent possible hearing damage, do not listen to high volume levels for long periods.